

評価項目	取り組み状況
<p>教育・保育方針 教育及び保育の目標 全体計画・指導計画 こども園として特に配慮すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育課程 ・教育環境の整備 ・研究の取り組み 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から引き続き、「子どもをつなぐ教育保育支援」をテーマとし、豊中市の「教育保育環境ガイドライン」を学びつつ、クラスの公開保育を iPad で録画し、保育内容や環境を振りかえる機会をもった。 ・年カリ、月カリ、週日案のねらいがリンクをしているか、変わったところを見直しながらなぜその部分が変わったのかを保育総括で乳児幼児に分かれて話し合いを深めた。
<p>健康支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症予防対策として、引き続き手洗い、黙食、職員の別食を徹底した。マスク着用については厚労省から屋内での喚起などを含めて緩和策が出されたので、幼児のマスク着用は各家庭にゆだねることにした。
<p>安全管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、安全点検を行い危険箇所の発見や修理を行い事故防止に努めた。 ・火災、地震、不審者侵入などの避難訓練を実施した。担当職員が避難訓練の起案を作成し訓練前に全職員への周知を行い、実施後課題や問題点を明確にし、記録に落とし込み職員間で共有した。 ・消火器点検表を作り点検と同時に場所確認が行えるようにした。 ・複合施設としてデイサービスや社会福祉協議会の事務所とともに北消防署員の方に来ていただいて合同訓練を行った。
<p>食育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラス菜園活動を通して、作物の生長を観察し、収穫物の調理を見たり、部分的に関わったりすることで意欲的に喫食する姿が見られた。 ・行事食の由来や、季節の食材に対して技能職員が各クラスを回り、話をしたり、実際の食材に触れる機会をもったりすることで、子ども達が食に対して学ぶ機会をもった。
<p>子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入園している子どもの保護者 ・地域の子育て家庭 ・地域との連携 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て支援センターは、コロナ禍で人と関わる機会がもてず、地域の親子が行き場がなく閉塞感や不安感を感じているのではと危惧された。「公園ホット」が始まり、地域の親子との交流のひとつとなった。 ・在園児の保護者の子育ての不安や悩みをに寄り添い、保護者が少しでも安心できるよう努めていった。
<p>教育・保育内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護・健康・人間関係 ・環境・言葉・表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスノートや壁新聞で、クラスの様子を伝えるだけでなく「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」を意識して日々の教育保育に取り組んでいることを意識して伝えるようにしていった。 ・コドモンアプリを活用し、その都度子ども達の様子を配信することで園での子ども達の様子を保護者がより理解しやすいようにした。
<p>特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と子どもの育ちを確認し共有しながら「個別の支援計画」を作成し、周りの友だちと“共に育つ”姿を目指し教育保育をすすめていった。 ・巡回指導などにより、子どもにとってより良い手立てや援助ができ

	<p>るようアドバイスを受け、充実した支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育ちに不安を感じている保護者の思いに寄り添いながら、必要な支援を行える専門の機関につないだり、連携したりしながら育ちや成長を見守ってきた。
職員の資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー研修や公開保育において、招聘した講師にクラスの活動や子どもの様子を見ていただき、必要な支援の方法や、活動の持ち方など具体的に指導をいただきクラスの教育保育に生かすことができた。 ・研修に参加したり、教育保育の課題解決につながる書籍を読んだりできる環境を意図的に作り、職員がまんべんなく学べるようにした。
幼保こ小中の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保こ小連絡会では、就学前施設から小学校への学びなどの引継ぎをどのように行うと有効的なのかを考え、気になる家庭をどのように支援していけば子どもの健やかな成長につながるのかを共通理解した。 ・今年度から職業体験学習も再開した。不登校などの問題を抱えた子どもが異なる環境でどのような姿を見せているのかを各機関で共通理解し、その子どもの多面的な見方につなげていった。
関係者評価の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員会は子どもたちの姿や保育環境など園運営にとって貴重なご意見をいただく機会となった。コロナ禍において子ども達がどのようにいろいろな人との関わりを持っているのかを知っていただく機会にもなった。 ・保護者アンケートでは保護者が悩みを相談できると感じられていないことがわかる。保護者のニーズを検討し対応していく。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・「コドモンアプリ」を活用しながら、情報発信や、職員の事務の軽減を図っていく。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
園の教育保育や子どもの姿をわかりやすく伝えていく。保護者が相談しやすい雰囲気作りをする	<ul style="list-style-type: none"> ・コドモンアプリなどを活用しながらその都度子どもの様子や、教育保育のねらいなどを発信できるようにしていく。 ・保護者が不安に思っていることを日ごろのやり取りや子どもの様子などから早めにキャッチし、職員間で共通理解し、職員全体のチームとして保護者と関わっていけるようにしていく。
教育保育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・意識的に研修や、自己研鑽として書籍を読んだりすることで幼児理解の知識を深めていく。 ・就学前施設で起こった事件や問題活動をケースとして職員会議などで振り返りながら自分の教育保育活動の糧にしてい

令和5年（2023年）3月31日

豊中市立 東豊中こども園

園長名 黒澤津 ルミ